

北陸石仏の会々報

富山市本宮 浄心山念法寺の法蔵菩薩

平井一雄

富山県富山市本宮浄心山念法寺の裏庭と地鉄立山線線路の間にある。
(高さ一〇〇センチ 幅五〇センチ)

古びた納骨堂の前に破風型笠石を載せた方形石柱の前面に法蔵菩薩が浮彫に彫られている。右立膝頭に両手を重ね、螺髪、目をつむった顔を傾けている。釈迦苦行像の像容であるが念法寺は浄土真宗の寺であるので法蔵菩薩である。

ここは石仏探訪の途中で見つけられた北陸石仏の会々員の松井兵英さんに案内してもらった。『大山町の石仏第一、二集』は寺境内の石仏は調査されていないので、この法蔵菩薩石像は採録されていない。

法蔵菩薩石像の前には中世五輪塔二基建てられている。

右側面の銘文は

先祖 葉勢上人号慈暢仙人上本宮 ■墓有頼卿之師開立山南之道

中祖 浄心坊ヨリ十世 念法寺

昭和三十年四月廿八日建之 坊守 佐伯松枝

意訳

佐伯有頼公の師慈朝仙人(号 葉勢上人)が立山南の道を開山、この人を先祖とする中祖、浄心坊より十世念法寺。昭和三十年四月廿八日建之 坊守 佐

伯松枝

・念法寺 真宗大谷派 『大山町史』昭和三十九年発行に記載

由緒 文武天皇大宝二年、佐伯根磨の子、安磨の孫、右大臣有頼郷立山を開いた。弘法大師立山に來られ、真言宗を開山、慈興上人に伝う。爾来、七百年立山本宮寺奥の院の司となった。

開山の直系として真言宗を守る。覚如上人の代に真宗に転じ、一如上人のとき、念法寺の寺号及び大谷派に帰参する。以来、浄心坊より現在に至る十代約二五〇年。



第75号
令和7年9月5日発行
編集と発行
北陸石仏の会
(日本石仏協会北陸支部)
代表 平井一雄
〒939-1315
富山県砺波市太田
1770 尾田武雄方
電話 0763-32-2772
振替 00740-2-11974
(年会費 3000円)
ホームページ
<http://odatakeo.wp.xdomain.jp/>

- ・念法寺の法蔵菩薩
- ・相森幹太郎の逆立ち狛犬
- ・井波石工 甚右衛門
- ・第68回例会報告
- ・第69回例会案内

相森幹太郎の逆立ち狛犬

滝本 やすし

加賀逆立ち狛犬は加賀地方北部を中心に石川県内に数多くみられる。現存する参道狛犬が116対で、4対の廃棄を確認している。このうちの1対のみが寺院で、他は神社に奉納されている。

相森幹太郎の銘が確認される逆立ち狛犬は20対で、銘を確認できないが相森の作と思われる逆立ち狛犬が3対あり、推定総数は23対である。名工といわれる福嶋伊之助の銘が確認される逆立ち狛犬は19対で、銘を確認できないが伊之助の作と思われる逆立ち狛犬が2対あり、推定総数は21対である。加賀逆立ち狛犬の発祥地である金沢から離れた松任(現在の白山市)で、福嶋伊之助よりも多くの逆立ち狛犬を制作されている。自らを石匠と称する技量の持ち主で、独特の表情と流れるように美しい毛並みが特徴的である。

相森の銘が確認される最も古いものは白山市横江町宇佐八幡神社の境内摂社菅原社の狛犬で、大正三年造立である。そして最も新しいものは野々市市三日市町郷八幡神社の狛犬で、昭和十四年造立である。初期の作例は鬣や尾の毛並みが比較的シンプルであるが、晩年になるにつれ、豪華で盛り上がった毛並みとなっている。相森はこの他に、逆立ちしない狛犬も制作されている。

白山市横江町宇佐八幡神社の境内摂社菅原社の拝殿の囲い内に窮屈に納められている狛犬は、基壇の正面に「奉」「納」および多数の人名が刻まれており、最後に「相森幹太郎」の名前も刻まれている。基壇の側面に「大正三年」「二月吉祥」「石工／松任／相森」と刻まれている。奉納者の一人として相森幹太郎の名前が刻まれていることから、相森は横江に住だったのだろうか。

白山市八ツ矢町菅原神社の狛犬の再建された基壇に「平成八年五月再建／相森石材」と刻まれているが、幹太郎がこの年代まで制作を続けることは考えられないので、相森石材とあるのは幹太郎の後継者であろうか。しかし、相森石材という石材業者は現在はなく、以前にあったことも確認できない。

相森幹太郎の銘が確認される逆立ち狛犬

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 大正三年 | 白山市横江町 宇佐八幡神社 境内摂社菅原社 |
| 2 大正四年 | 野々市市清金 清金中宮神社 |
| 3 大正六年 | 白山市宮丸町 櫛本神社 |
| 4 大正十年 | 白山市若宮 貴船神社 |
| 5 大正十三年 | 金沢市中屋町 産王神社 |
| 6 昭和三年 | 白山市小上町 八幡神社 |
| 7 昭和四年 | 白山市宮永町 宮永八幡神社 |
| 8 昭和五年 | 白山市平松町 平松春日神社 |
| 9 昭和五年 | 野々市市二日市 荒川神社 |
| 10 昭和六年 | 野々市市御経塚 佐那武神社 |
| 11 昭和六年 | 白山市七原町 春日神社 |
| 12 昭和七年 | 川北町山田先出 磐出神社 |
| 13 昭和八年 | 野々市市徳用町 光松八幡神社 |
| 14 昭和八年 | 野々市市藤平 錦橋八幡神社 |
| 15 昭和十年 | 白山市倉光 日吉神社 |
| 16 昭和十年 | 野々市市稻荷 稻荷神社 |
| 18 昭和十四年 | 野々市市三日市町 郷八幡神社 |
| 19 造立年不明 | 白山市村井新町 村井新稻荷神社 |
| 20 造立年不明 | 白山市八ツ矢町 菅原神社 |
| 相森幹太郎の作と考えられる逆立ち狛犬 | |
| 21 昭和十年(推定) | 能美市荒屋町 荒屋神社(国鉄松任工場皇太神宮より移建) |
| 22 昭和十一年 | 白山市四ツ屋町 大鞆和氣神社 境内摂社杉の宮 |
| 23 昭和十九年 | 白山市安養寺町 神田白山神社 |



16 野々市市稲荷 稲荷神社／昭和10年



1 白山市横江町 宇佐八幡神社 摂社菅原社／大正3年



17 野々市市郷町 田中八幡神社／昭和13年



2 野々市市清金 清金中宮神社／大正4年



18 野々市市三日市町 郷八幡神社／昭和14年



6 白山市小上町 八幡神社／昭和3年



21 能美市荒屋町 荒屋神社／昭和10年(推定)



12 川北町山田先出 磐出神社／昭和7年

井波石工 甚右衛門

尾田 武雄

南砺市井波の町を流れる東大谷川両側に石屋町があり、そこに石工がたくさん居たといわれる。井波町教育委員会編『井波の由来と伝説 井波地区』（平成5年刊）によると北川に「石屋町（いっしやまち）脇本魚店向かいの東大谷川沿いに、昭和初頭頃まで石屋さんが軒を並べていたので、この通りを石屋町と呼んでいた。閑乗寺台地の奥まった南斜面は字石山といわれ、その石切場から石を切り出して石仏、石臼、根太石、墓石などを加工していた。町史によると、井波町が藩に石山金を上納し採掘許可を得、享保十八年（一七三三）に石山希望者に百五十匁の役銀と引き替えて採掘させたそうである。北川村に十軒ぐらいの石屋があった。井波町や松島村にも採掘権も採った者がいた。」とある。

その中央に亡くなられて久しい前衛書家常川汀華宅がある。十数年前になるが汀華にお会いした時先祖は石屋だったと教えていただいた。その際に詳しく教えていただければよかったが、そのまま放置していた。最近、甚右衛門のことを調査していると、長谷川総一郎富山大学名誉教授からいろいろご教示を得た。汀華さんは二〇〇六年に死亡され、東大谷川左岸に位置する所に居住され、前の石屋としては現在の家三軒分になるだろうとのことである。この汀華さん宅が甚右衛門の家でもあった。氷見市長坂の曹洞宗光西寺の嘉永四年（一八五二）五月の銘のある不動明王坐像は常川五市郎であるが、長く寺に逗留し三十三カ所観音ヶ所石仏も制作されているが、この五市郎も常川甚右衛門の系列に関わる人材である。甚右衛門は活躍した名工であるが、銘文のある石仏は四体確認している。年次在銘のあるのが一体で、文政二年（一八九一）の阿弥陀如来坐像である。尊名は阿弥陀如来坐像が三体、不動明王坐像と六観音一組である。常川五市郎に関しては『北陸石仏の会々報』第64号「井波石工について」に掲載したので、ご覧ください。

No.	尊名	石工銘	造像年	所在地
1	阿弥陀如来坐像	石工甚右衛門	なし	南砺市野尻石武雄神社東
2	阿弥陀如来坐像	石工甚右衛門	文政二年	小矢部市経田
3	不動明王坐像 六観音坐像	作者井波石屋 甚右衛門	なし	南砺市荒町路傍
4	阿弥陀如来坐像	作者井波石工 甚右衛門	なし	小矢部市中

また他に、常川義太郎、常川茂太郎銘のある石仏や狛犬があるが、同工房で制作されたのであろう。



③不動明王坐像と六観音坐像
南砺市荒町 路傍



①阿弥陀如来坐像
南砺市野尻 石武雄神社東



④阿弥陀如来坐像
小矢部市中



②阿弥陀如来坐像
小矢部市経田



第68回例会報告 福井市旧清水町の石仏巡り①

川野 明正

北陸石仏の会の見学会に参加した。まったりゆったりとした見学会は楽しい。いつの間にか大量の笏谷石の石造物をみて、いつのまにか大事な見解や知識を教えて頂いて、こちらの会の魅力にすっかり感じ入ってしまった。

日本石仏協会本部は支部との連携強化を目指しており、今回の見学会に当たり、その一環としての私ごと日本石仏協会会長の川野が訪問し、北陸石仏の会に入会させて頂いた。

地方石造物関連団体の見学会では、本堂のみほとけや本殿のご祭神はかならず拝し、石仏も拝む。当たり前のことだ。しかし本部の関東地方の見学会では、拝む方は少ない。本部長としては忸怩たるものがあり、最後にみほとけやご祭神に手を合わせて詫びることが常である。『紀要』も刊行する研究重視の姿勢なども加え、本部が支部に学ぶことが多いことを実感した。

第六十八回例会は、滝本氏ご案内、尾田氏事務局長として参加、参加者には、あわら市郷土歴史資料館館長の九千房英之氏ご夫妻や丹波市文化財保護審議会委員の山内順子氏も参加され、奇しくも滝本氏と私を含めると『日本の石仏』一八五号の寄稿者四名が参加した。九千房英之氏も補足で解説をされ、殊に各石造物の形態的特徴から、造立年代の判別をして頂いた。滝本氏・尾田氏・九千房氏にはこの場を借りて篤く感謝申し上げます。

印象に残った石造物を以下三点挙げる。文末に見学地リストを記した。

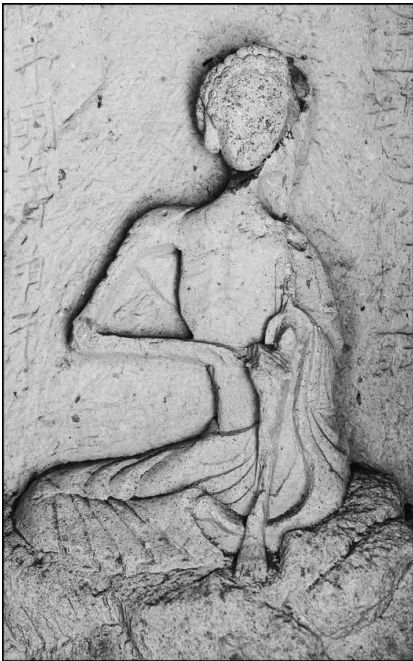
①加茂神社青面金剛像（浮彫）（挿図①） 元禄二己巳天（一六八九）余月（旧暦二月）吉日「寄進者名「任海」とある。寄進者は横山庄太夫家祖先と、東清水公民館社会部（編）『東清水神社誌』（二〇一六年）にある。一面四臂・二童子・二猿（人像状に近い）・二鶏。真宗王国の越前では珍しいが、最古の青面金剛刻像は福井県内永平寺町松岡湯谷 神明神社の正保四年（一六四七年）のものである。

②第二次上海事変戦没者慰霊像（挿図②） 第二次上海事変（一九三七年）の端緒となった虹橋飛行場事件で殺害された斎藤與蔵一等水兵（死後三等兵曹に特進）の像。尾田氏の解説で、日清・日露戦争などでの二十代の青年が戦死することの、郷村の甚大な痛手、同年代の青年組の悲しみ、殉国の大義に隠れた家族の悲しみが、戦没者慰霊塔の類にあることを話された。背面に「お婆さんは泣いている」と書いてあるものもあるという。日本石仏協会が将来に涉り存続するためには、近代石造物のなかに、庶民の心情がいかなるものであるかを記録していく活動が会の存在意義となるだろうし、必要であることを実感した。本部では浜田弘明常任理事が、各種慰霊塔を含め近代石造物の研究にここの数十年取り組まれている（浜田弘明編集代表『日本石造文化学典』朝倉書店、二〇二四年）。なお、戦没者慰霊像の説明文の一部が削除されていたが、戦後忠君愛国的な文言を墨塗り教科書の例の如く、消去したものと思われる。

③五劫思惟阿弥陀仏（浮彫・瘦身型）（清水杉谷町）（挿図③） 東南アジアでは『ジャータカ』でのお釈迦様の前世の姿を拝むが、日本では寡聞にして知らない。しかし日本で他のみほとけの前生のお姿を尊崇する事例に、五劫思惟阿弥陀仏さまがある。阿弥陀仏前生の法蔵菩薩さまである。ところが、尾田武雄氏から説明を伺った尊像は、民衆の想像によるもので、お釈迦様苦行のお姿をも彷彿させる瘦身状の像容をとる希少なお姿であった。浄土真宗が盛んな北陸ならではとのこと。長い長い五劫もの間の修行でも豊かな体躯を保ち、頭髪が伸びた尊像で知られる五劫思惟阿弥陀仏さまのご像であるとは異なるし、現代真宗の教義とは全く異なるもので、驚いた。尾田氏が解説されたように、宗教近代化で切り捨てられた民衆の祈りの形を見る思いで、仏教系大学の東洋大学（学祖井上圓了先生は浄土真宗大谷派の僧）で近代的学問を学んだ私も、反省させられた。

見学地リスト (滝本やすし氏作成資料に九千房英之氏の推測年代を附記)

- ① 朝日山露天採掘場跡(西木田、朝日山不動寺脇) (笏谷石製狛犬二体・一体は推定十六世紀末から十七世紀初)
- ② 朝日山不動寺(西木田) || 十二支守り本尊
- ③ 足羽山笏谷石地下採掘口跡(七ツ尾)
- ④ 毛谷白山神社(毛谷) || 笏谷石製狛犬一对・万延元年中秋)・二段房推定十六世紀半・十七世紀笏谷石狛犬各1体・渡唐天神像(陰刻)・白山比咩神(浮彫)・六字明王(神明さん)(浮彫)
- ⑤ 曹洞宗栄光寺跡・八幡神社(片粕町) 石塔(推定:十二世紀後半程度) 七重塔(推定十三世紀後半)・十六羅漢(推定十八世紀中期)・藤神様浮彫(地藏菩薩・天文九年)・笏谷石製小型狛犬(推定一体十七世紀・残り十八世紀)。
- ⑥ 加茂神社(下天下町) || 青面金剛浮彫(元禄二年)
- ⑦ 五劫思惟阿弥陀仏(浮彫)(清水杉谷町) 瘦身型
- ⑧ 片山五輪塔(推定十五世紀)(清水片山町)
- ⑨ 天台真盛宗西光寺(清水片山町) || 報真真言塔(二基)(永正七年) 薬研彫り「オン・ボ・ラ・イ・ア」
- ⑩ 片山八幡神社(清水片山町) || 石造鳥居(慶長十八年八月)
- ⑪ 上海事変戦死者立像(兵隊地藏)(彫刻宮本青山)
- ⑫ 高雄神社(本堂町) || 笏谷石製狛犬(寛永五年)・六地藏灯籠・石造七重塔(正応三年)・継体天皇像・狛犬附灯籠(昭和十六年二月・石工:宮本青山)



清水杉谷町 五劫思惟阿弥陀仏



本折町 第二次上海事変戦没者慰霊像



下天下町加茂神社 青面金剛像

第68回例会報告 福井市旧清水町の石仏巡り②

松浦 雅子

昨秋の石仏めぐりに初めて参加して、会員となりました。今回2回目の石仏めぐりです。

前日の風雨とは打って変わり、当日は良い天気となりました。尾田様曰く、石仏めぐりの日は雨が降ったことが無いそうで、石仏様のお力によるものではないか。尾田様、滝本様の連携運転で、同乗の皆様との会話ははずみ無事福井に到着しました。

こういう機会がなければ訪れることが無かったと思われる石切り場の見学がありました。セメント等がない時代には石は、大切な素材であったことがわかりました。片山町の路傍の五輪塔では、先人の方々の思いや息吹が伝わってくるようでした。ゆつくり市内を回ったことが無かったのですが、滝本様より福井についての案内をしていただき、旅をしているような感覚もありました。最後でへばってしまい、何段もある階段を普通に上っていかれる皆様のお姿を、はるか下で拝見しておりました。

石仏めぐりは、当初怖かったのですが、参加した日はぐっすり眠れて、目覚めも清々しいことに気づきました。還暦を過ぎた私ですが、石仏めぐりを体験することで、今後どう生きていくかのヒントみたいなものも得られているように感じます。お世話をしてくださった皆様、誠にありがとうございます。



片粕町八幡神社(曹洞宗栄光寺跡) 七重塔など



片山町八幡神社の石造古式鳥居前にて記念撮影

令和7年5月18日



片粕町八幡神社(曹洞宗栄光寺跡) 十六羅漢など

北陸石仏の会 第69回例会

—加賀逆立ち狛犬めぐり—

令和7年10月19日(日)

参加費：会員7500円、会員外8500円

集合場所：金沢駅西口・・・午前9時00分(午後3時頃解散予定)
中型バス利用、20名募集。

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

※集合場所および時間が不都合な方はご連絡下さい。

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：令和7年9月25日(木) ※募集人数に達し次第締め切ります。

案内：滝本やすし(石川県金沢市)

昼食：コース途中の公園で、雨天時はバス車内で。昼前に買い物できます。

見学予定

◎金沢市天神町 椿原天満宮／原型、安政6年、石工：松田七佐工門

◎金沢市東御影町 卯辰神社／原型、慶応3年(推定)、石工：油屋佐兵工

◎金沢市増泉 春日神社／金沢型、明治15年

◎金沢市寺町 諏訪神社／金沢型、明治22年、石工：由野伊三郎

◎野々市市下林 薬師日吉神社／金沢型、明治28年、石工：福嶋伊之助

◎野々市市清金 清金中宮神社／発展型、大正4年、石工：相森幹太郎

◎白山市坂尻町 乙劔神社／金沢型、大正9年、石工：福嶋伊三次

◎白山市曾谷町 乙劔神社／金沢型、令和6年建て替え、石川石材商事(株)

諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。